別紙様式１

平成２９年度　学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	□共同研究推進　□若手教員研究支援　☑個人研究支援 □研究推進重点設備　□研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	教職大学院と地域学校との協同的な研究環境の構築 －「学校改善マネジメント研修会」を活用した地域の小・中学校との研究推進－
報告者氏名・所属・職名	中村　吉秀　教職大学院　函館校（学校経営　校内研修）　特任教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	中村　吉秀　教職大学院　函館校（学校経営　校内研修）　特任教授

研究内容及び成果の概要

「理論と実践」あるいは「理論知と実践知」が往還するための条件や環境及び課題を導き出すことが，本研究の特徴である。そのために、次の4点を掲げて取組を推進した。

①「学校経営に関する識見の視野を広げる」ための，戦略的思考と方策を獲得すること。

・中学校長会、中学教頭会へのリーダーシップに関わるアンケートを実施し、その分析をもとに経営に必要とされる識見を感得した。さらに、中学校教頭会での研修講演会において、その分析結果を活用し、リーダーシップについて研修を深めた。

②「学校経営の実態と分析，課題を解決する」ための，知見と経営力を身につけること。

・視察研修については、福井大学教職大学院と宮城教育大学教職大学院の2校を選んだ。福井大学教職大学院は、実直に地域との連携を踏まえた中での「理論と実践」の往還をとらえ実践を進めていた。宮城教育大学教職大学院は、大学の規模が本学と近いうえに、修士を残したまま教職大学院を展開している体制から、今本学が抱えている課題の解決に迫る手だてのヒントを見出すことができた。この2校の視察で得た知見は、今後の地域の学校との連携や経営を推進するための力になると感じている。

③「魅力ある学校づくりを推進する」ための，新たな発想を獲得すること。

・多様で幅広い知見から、新たな発想が見えてくる。そのために、北海道立教育研究所・南北海道教育センターと教職大学院函館校が連携・協議し、これからの在り方を探ることが求められる。そのスタートについたが、方向性を見据えるまでにはいたらなかった。

④「自律的な学校経営の構築を実現する」ための，カリキュラムマネジメント，コミュニテースクールに関わる構想をまとめ，総合的思考を広げるために「公開講座（カリキュラム・マネジメントを考える）」を実施した。

・12月に「学校マネンジメントを考える会」を設立する。対象は、道南（函館・渡島・檜山）の教職員を対象としている。現時点では、参加者数名であるが、臨床的な語りを基底に学校の抱える課題をテーマに掲げじっくり熟議を重ねている。年6回実施を目指し、広がりを期待しながら、教育現場に必要とされる総合的な思考力・省察の向上を図っていきたい。

成果の公表の状況

【著書】

【学術論文】著者：中村吉秀　山口好和　表題：教職大学院の「学校課題俯瞰実習」に求められる教育的な手だて　雑誌名：「北海道教育大学大学院高度教職実践専攻研究紀要　第8号
発行年　2018（4月以降に発刊予定）　pp.1～22

教育現場で活用可能な分野・教材等

「学校マネジメントを考える会」の定期的な実施により、教育現場に知見を広げることが可能となっている。

配布又はダウンロード可能な資料	

問合わせ先	代表者：中村吉秀 電　話：0138－44－4318 FAX　　：0138－44－4318 mail　：